

能代高

5領域で探究活動

1年生が
成果発表会
アグリやツーリズムへ提言

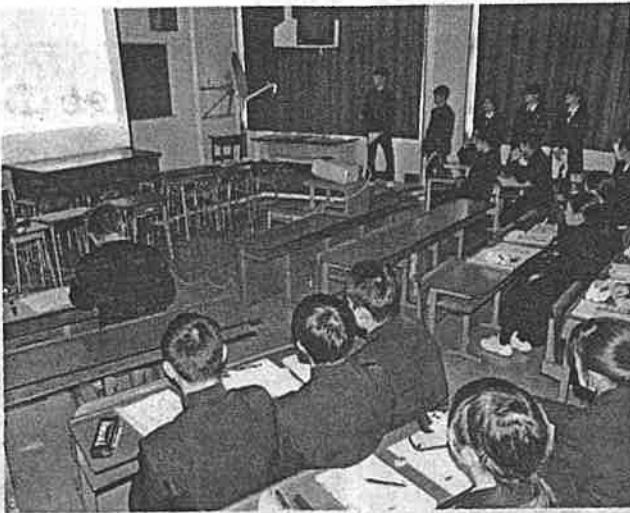
能代高（山田浩充校長）で18日、本県や能代山本が抱える課題の探究活動に取り組んできた1年生による成果発表会が開かれた。アグリやツーリズムなど5領域に分かれ、多彩なテーマで調査してきた生徒たちは現状の課題を基に解決策を提言し、古里の未来について考えた。

同校は平成19年度にキ

ヤリア教育「ウィル・プロジェクト」をスタートさせ、昨年度から内容を一新した「ニュー・ウィル・プロジェクト」を展開。探究活動は同プロジェクトの軸となるカリキュラムとして29年度から継続している。1年生はグループ活動、2年生は個人でテーマを設定して取り組んでいる。

1年生229人は今

年度、▽アグリ▽グリーン▽ヘルス▽ライフ▽マツリズム—の5領域に分かれ、6月に活動をスタート。フィールドワークや専門家への聞き取り調査、ICT（情報通信技術）を活用して外部アドバイザーから指導を受けたりして調査を進めた。成果発表会は領域ごとに分かれて実施。このうちツーリズム領域は「インバウンド（訪日外国人旅行者）観光の活性化」や「商店街の空き店舗活用」、「6次産業の活性化」といった多彩なテーマで9グループが発表した。



探究活動の成果を発表した生徒たち（能代高で）

齊藤陽菜さんのグループは、訪日外国人が多く利用しているというJR五能線の観光列車「リゾートしらかみ」のプランド化を考察。列車の各停車駅で新たな観光資源や魅力を発見し、発信すること秋田での長期滞在につながる考えた。

市内や秋田市でのフィ

ールドワークを通して、訪日客に対応できる人材に限りがあるとして、観光地や商店街の各店舗、タクシーなどの公共交通

機関への翻訳機の設置、英会話力向上の必要性を提言した。発表会には外部アドバイザーを務めた秋田大や

県立大、日本赤十字秋田看護大の教員らが来校。各グループの発表に対して、今後の活動に向けてアドバイスを送った。